

新刊紹介



決定版! グリーンインフラ

著者：グリーンインフラ研究会、
三菱UFJリサーチ&コンサルティング、
日経コンストラクション
発行：(株)日経BP社
発売：(株)日経BPマーケティング
仕様：A5判 392ページ
定価：3,200円(税別)

グリーンインフラという言葉聞いたことがあるだろうか。グリーンインフラストラクチャーの略で、多様な機能を活用した社会資本整備や土地のあり方のことを表す概念だ。欧米では10年以上前から公共事業の都市戦略や環境政策で使われていたものの、わが国で普及し始めたのはほんの数年前だそうだ。

そのグリーンインフラが最近、急に注目を集めている。2015年に、国の施策に位置付けられたためである。2015年8月に閣議決定され、今後10年間の国土づくりの方向性を定める国土形成計画に、「グリーンインフラ」という言葉が初めて使われた。同年9月に策定された第四次社会資本整備計画では、持続可能な地域社会の形成に向けて、グリーンインフラの推進が明記されている。

さらに、翌16年5月に決定された「国土強靱化アクションプラン2016」でも、防災・減災につながる施策として、グリーンインフラの推進が盛り込まれている。

それでは、グリーンインフラの指す具体的な事業内容とはどのようなものだろう。例えば、水循環の機能を持つ貯留・浸透施設もその一つだそうである。そのほか、多自然川づくりや遊水池、屋上緑化、浄化能力のある湿地、再生可能エネルギーなど、グリーンインフラを構成する要素は多岐にわたる。

ただし、これらの構造物を個別に建設するだけでは、従来の事業と何も変わらない。グリーンインフラの実現には、地域全体の社会的便益の最大化を目指して、複合的、多面的に計画・整備することが重要なのである。

本書は、グリーンインフラについて国内で活躍する産官学の第一線の識者が集まったグリーンインフラ研究会でこれまでの概念や議論を整理し、研究会に所属する技術者・研究者など約50名が国内外のグリーンインフラの動向、先進事例を紹介するほか、これからの将来像やビジネスチャンスについても言及している。